

春日部がもっと好きになる、まちの情報誌

# kasukabe

Plus

2018 SPRING/SUMMER vol.10

みんなが「藤」を愛するまち。

花言葉は“歓迎”です  
ようこそ、藤のまち春日部へ!





2018 SPRING/SUMMER vol.10

【表紙の人】  
春日部市在住で、音楽・舞臺として活躍している品川舞臺さん。「藤花集」の表紙の藤の下で撮影しました。「小学生のとき以来」とも懐かしそすでした。

# 花言葉は“歓迎”ですよこそ、藤のまち春日部へ!

## CONTENTS

- 1 かすかべ「藤」マップ 06
- 2 「牛島の藤」の愉しみ方。 08
- 3 図解!「ふじ通り」 09
- 4 「藤まつり」で会いましょう! 10
- 5 今年はこんなに咲きました! 11
- エッセイ 12

### かすかべフードセレクションの中にも「藤」にまつわる商品があります!

春日部ならではの優れた食品を「かすかべフードセレクション」として認定しています。その中から「藤」にまつわる2品を紹介!

春日部商工会議所青年部メンバーが中心となって開発した水筒焼酎「やまやぶ藤乃麴」(茶)。「牛島の藤」の花から採取した麹田が使われていておいしい焼酎です。



「ファミリースー」や「やまやぶ藤乃麴焼酎ケーキ」。「やまやぶ藤乃麴」の茶焼酎をベースにして金輪はかり製法で仕上げた大人ケーキです。

市民文化会館六ホールの絵巻(びんちり)は藤がモチーフになっています。作品を描いたのは日製繪堂中学(現春日部高輪)出身の日本画専、関根晴雄氏(故人)。昭和49年制作。



歌舞伎舞臺「藤娘」は題材が押籠羽子塚。女児が生まれ、健やかに成長を遂げて家業を継ぐなどから贈られる縁起物としてよく用いられています。押籠羽子塚は春日部市の特産品です。



春日部市商葉協同組合発行のイベントマップ「ふじのまち」でおなじみの「ふじのまち」が、市商葉協同組合のイベントに追加して大活躍しています。



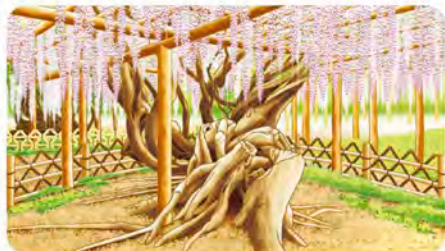
性格は明るく、活発な女の子!

# かすかべ「藤」マップ

みんなが「藤」を愛するまち。

春日部市の花「フジ」(平成19年2月21日指定)

藤は、日本最古の文獻「古事記」や歌集「万葉集」にも登場することからも分かることおり、古くから日本人に愛されてきました。市内には、樹齢1200年以上ともいわれ、国の特別天然記念物に指定されている「牛島の藤」があります。春日部市は平安人も愛でたかもしれないこの木にちなんで、フジを市の花に指定しました。また、春日部駅西口から一直線にのびる「ふじ通り」は街路樹としては日本一の規模を誇り、駅前の藤棚をはじめとして市内各所で藤を楽しむことができます。藤にまつわるグルメや特産品が作られるなど、いまや春日部を語るうえで絶対に欠かせないのが藤なのです。



国の特別天然記念物に指定された「新日本名水百選」にも認定されている「牛島の藤」。

### 市内の藤の見所を紹介します!

- ① 街路樹の藤棚としては日本一の規模を誇るふじ通り。4月下旬には藤まつりも開催。
- ② 大沼公園前の藤棚。ふじ通りにはない「ヤエコクリウワジ」も見ることが出来ます。
- ③ 春日部市の玄関口である春日部駅西口駅前広場。藤棚が皆さんをお出迎えます。
- ④ 豊春地区公民館では、藤を楽しむイベントが毎年開催されています。
- ⑤ 「エンゼルドーム」には、藤棚だけでなくクレヨンしんちゃんのコモメントも設置。
- ⑥ 東道10号沿い(緑柳小学校付近)でも、街路樹のフジを楽しむことができます。
- ⑦ 牛島の「藤花園」。特別天然記念物に指定されたフジは、まさに圧巻です!



足元には緑! 春日部市のマンホールも蓋は、一面に藤を飾っていて、花の色が多くあります。



豊春地区公民館「藤のお花見会」  
豊春地区公民館では、毎年4月下旬に「藤のお花見会」を実施しています。美しい藤が咲き誇るなかミニコンサートなどが行われ、多くの地域の皆さんに参加いただいています。

みんなで  
シティセールスシンボルマークを使おう!

「ふ」はこのまちに住む一人ひとりが大切に想う「春日部の好きなおとこ(魅力)」のこと。マークを使ってみんなで魅力を共有しよう。詳しくは市公式HPへ。

この情報誌には、写真が動くAR動画を掲載しています。  
シティセールスシンボルマークのアイコンのある写真でAR(エー・アール)動画を撮影します。スマートフォンやタブレットでAR動画を再生するには、無料アプリ「AR Viewer(エイチ・アール・ビューアー)」をインストールしてください。詳しくは市公式HPへ。



春日部名物「藤うどん」。又、埼玉産産の小麦を原料にした州産アヲハチ小麦を混ぜ練り上げた、きめ細かい藤色の麺。藤色の汁が立つ市内の3店舗で食べられます。お土産用の半生うどんも販売!





樹は根元から数本に分岐して、藤棚の面積は約700平方メートルにも及ぶ。昭和30年に国指定特別天然記念物となり、平成元年には「新日本名木百選」にも選ばれた。



昭和3年の「牛島の藤」(春日部市郷土資料館「かすかベデジタル写真館」より)

現在、藤花園を管理している園主の小島喜久雄さん

### 強い生命力こそが花の美しさの鍵

はいないが、前後の文章からこの園の藤だと推測できる。地面を大蛇のように這い回りながら天に向かって伸びる複雑で醜怪な根元に目を向け、そこに生命力の強さを見ているのが印象的だ。

**大蛇のごとく曲がりくねった藤の根は生命力の象徴**  
国内最大級といわれ、国指定特別天然記念物の牛島の藤は、ただ美しいだけでなく、幾多の文化人に愛されたことでも知られている。詩人の三好達治は、晩年、毎年のように藤花園に足を運び「牛島古藤花」という詩を詠み、「はんなり」という京言葉を使って藤の花の優雅さを讃えた。幸田露伴の娘・幸田文は、蛇のようになり、からみ合う太い根回りを見て、花のやさしさや美しさと、おどろおどろしいながらも強大な生命力を感じさせる根回りの対比に強く驚いたと随筆に記している。この随筆には「牛島の藤」と明記されて

「それは花の香りです。三好達治の詩にも、藤の香りが昔を思い起こさせてくれる、という一節があったはずですが、満開の藤が発する香りには、独特の優しい甘さがあって、嗅

さらに小島さんは、花の美しさや、風雨にさらされて変形した幹や根以外に、もう一つ注目して「感じてほしいものがあると言う。」

### 甘く優しい藤の香りに酔うなら早朝か夕方がお勧め

も、藤の樹が持つ生命力についてこう語っている。「園では、藤棚やそれを支える柱は、コンクリートの擬木ではなくすべて木製にしています。微妙な高さの調節ができ、樹に無理がかからないからです。また、肥料として酒かすや漢方かすを与えるなど、花付きをよくするための工夫も凝らしています。ただ、いくら手をかけても、人間の思い通りにいかないのが藤の難しいところです。藤の花には冬と夏の温度差も大いに関係していて、夏が涼しすぎても冬が暖かすぎてもうまく花を咲かせてくれません。人の手のかけ方だけでなく、四季の気候に対応して生き続ける藤の強い生命力こそが、花の美しさの鍵を握っているのです」

いっていると気持ちがすーっと癒やされるのです。日中の直射日光が強い時間帯は香りが飛んでしまうので、藤の花の香りをじっくり楽しみたいなら、早朝か夕方に園に来ていただくことをお勧めします」

この日も、園内には、早朝にもかかわらず、台湾からの団体旅行者が大型バスで来園していた。最近では、主にアジアなど海外からの観光客も多く訪れていて、藤の甘い香りに思わずうっとりとしながら園内を散策している。藤というと、優雅に垂れ下がる花房ばかりにどうしても目がいきがちだが、今春の藤の季節は少し趣向を変えて、見た目の美しさだけでなく、生命力あふれるおどろおどろしい根元や、甘く優しい花の香りにも注目し、藤の花の魅力のすべてを味わい尽くしてみたいかがだろう。

「藤花園」園主 小島 喜久雄さん

もともと牛島の藤は蓮花院(れんげいん)という寺にあったが、明治7年に廃寺となり、昭和初期に小島家の所有となった。「私ができるのは生育を陰でフォローすること。手をかけすぎても、抜きすぎても美しい花は咲かない。その見極めが難しいですね」

#### 藤花園

##### 平成30年度の開園日

4月20日～5月6日、開園時間8時～18時。入園保存料大人1000円、子ども500円。開花情報などは藤花園のホームページで確認ください。



みんなが「藤」を愛するまち。 2

## 「牛島の藤」の愉しみ方。

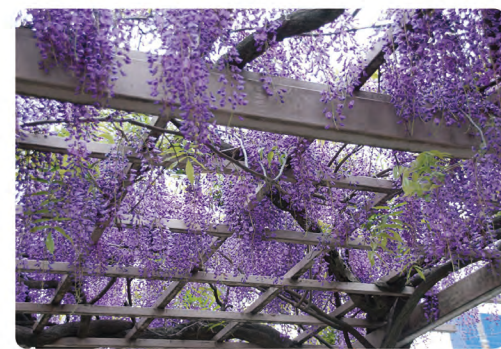
樹齢1200年を越すといわれる古木が一斉に薄紫色の花房を垂らす「藤花園」の牛島の藤。その最大の魅力が花の美しさにあるのは言うまでもないが、五感を研ぎ澄ませて、普段とは違った視点で園内を眺めてみると、また新たな魅力を発見できるだろう。





# 図解! 「ふじ通り」

春日部市民なら誰でも知っている「ふじ通り」は、整備されてから、間もなく40年を迎える。ふじ通りにまつわる、あんなこと、こんなこと……。あなたはどれくらい知っていますか？



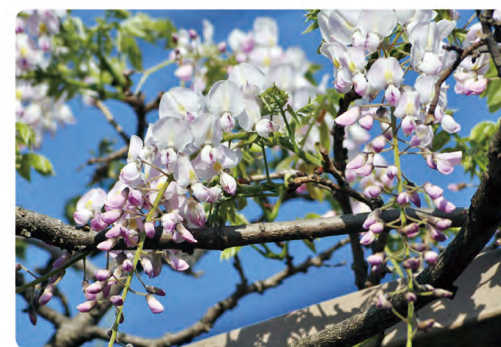
コクリュウフジ(黒龍藤)

[花色]濃紫色  
[房長]20~30cm  
[本数]約70本  
花房が密で、濃い紫色のきれいな花がたくさん咲く。最も普及している品種



シロカピタン(白花美短)

[花色]白色  
[房長]10~20cm  
[本数]約20本  
ふじ通りで一番初めに咲く早咲きの大輪。花房は短いが、香りが強いのが特徴



クチベニフジ(口紅藤)

[花色]白色  
[房長]30~40cm  
[本数]2本  
蕾は淡紅色で、満開になると白色の花先に口紅のような淡いピンク色が残る上品な印象の花

アカカピタン(赤花美短)

[花色]紅色  
[房長]10~20cm  
[本数]5本  
フジ属のなかで最も紅色が濃く華やかな花を咲かせる。大きな蕾も特徴



ムラサキナガフジ(紫長藤)

[花色]藤色  
[房長]50~100cm  
[本数]約70本  
紫と白の混じった花房が長く垂れる、美しく代表的な品種。古木・名木の多くがこの品種



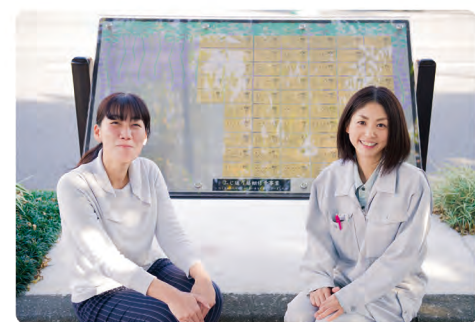
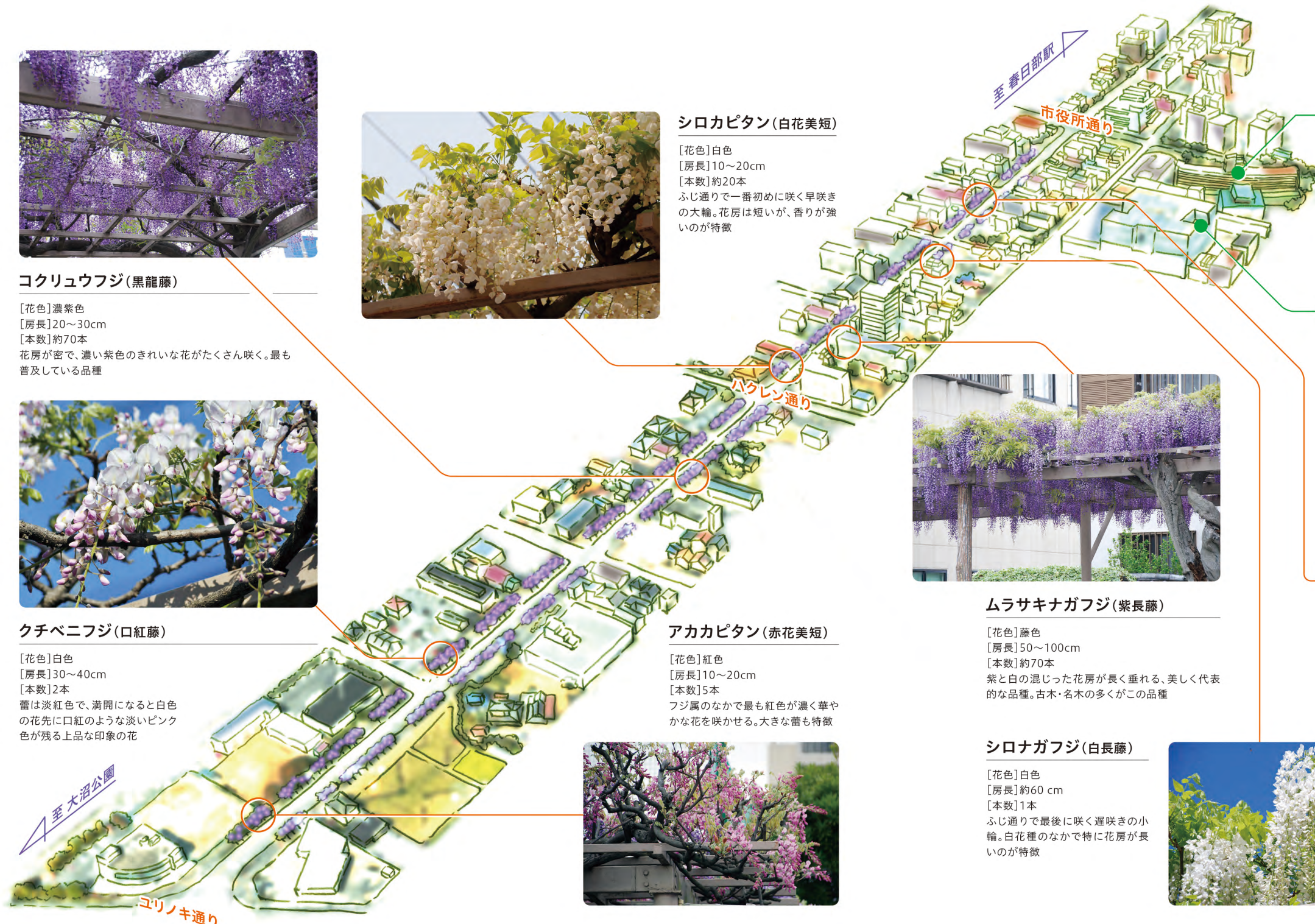
シロナガフジ(白長藤)

[花色]白色  
[房長]約60cm  
[本数]1本  
ふじ通りで最後に咲く遅咲きの小輪。白花種のなかで特に花房が長いのが特徴



ムラサキカピタン(紫花美短)

[花色]紫色  
[房長]10~20cm  
[本数]約50本  
花房は短いが大輪。葉より先に花が出るので棚一面が鮮やかな紫色に輝く



都市計画課の山田さん(左)と道路管理課の橋本さん。二人の後ろには、寄附者の名を刻んだ銘板が並んでいる。

「春日部市では、ふるさとくすかべ 応援寄附金(ふるさと納税)の使い道の一つとして、この藤棚再整備事業に活用しています。また寄附をいただいた方は、オリジナルメッセージ等を刻印した銘板を作成することができ、その銘板はふじ通りに設置しています。このフジの花は、市民と一緒に守り、育てているんです」(道路管理課橋本技師)

春日部のシンボル「ふじ通り」。美しい景観は、市民の理解と応援で守られている。

「植栽されているフジは7種類、218本!」

春日部駅西口のメインストリート「ふじ通り」では、藤棚が総延長約1.1キロメートルにわたって続く。道路両側の歩道に沿って設置された藤棚には、7種類、218本のフジが植栽され(上図参照)、毎年、訪れる人々を楽しませている。

ふじ通りの歴史は、区画整理事業の一環として整備された1979(昭和54)年にさかのぼる。当時の広報紙には、「今年三月、春日部駅西口大沼線歩道に市の花フジ百四十七本を植樹いたしました」との記述が残る。「ふじ通り」の名称は、83年に市民から愛称を募集し命名された。

87年には、国土交通省の「手づくり郷土賞(ふれあいの並木道30選)」を受賞。これは、地域固有の自然や伝統、文化等を貴重な資源として再認識し積極的に活用した、魅力ある地域づくり成功している事例として評価されたものだ。

また市では、2016年にふじ通りのフジを景観法に基づく「景観重要樹木」に指定した。「これは、地域の良好な景観の形成に重要な樹木を指定し、それらの維持保全を義務づける制度であり、地域のシンボルとして親しまれているフジを、将来にわたって美しく保っていくための」

ものです」(都市計画課山田主事)

そんな「ふじ通り」も、整備から約40年が経過し、藤棚の老朽化対策が必要となってきた。そこで、現在、さらなる魅力向上と安全な歩行空間の確保を図るため、藤棚の再整備を実施している。



# 「藤まつり」で 会いましょう！

2017年4月23日、午前10時30分。  
春日部市コミュニケーション推進協議会の主催による  
第36回「春日部藤まつり」がにぎやかに開幕した。  
快晴の春の日、満開の藤が咲き競う「ふじ通り」に19万人の笑顔が輝いた。  
さあ、今年も、「藤まつり」で会いましょう！

## 始まりは1982年 春日部の「春の風物詩」に

ズン、ズン、ズン、ズン……。  
抜けるような青空に、ダンスミュージックの重低音が、心地よく吸い込まれていく。ビートに合わせて軽やかにステップを刻むのは、小学校低学年のちびっこダンサーたち。軽快な動きが、アスファルトの路面に、くつきりと影を刻む……。

わが子のパフォーマン스에熱心にビデオカメラを向けるお父さん、お母さん。その一群に涼やかな日陰を提供しているのは、藤棚からこぼれるような紫色の花房——そう、今日は、春日部市民に初夏の訪れを告げる「春日部藤まつり」の開催日だ。

藤まつりは、春日部駅西口大沼線歩道にフジが植樹されたことを記念して、1982年に「第1回春日部藤まつり」が開催されたのが始まりだ。現在、通りの両側に植栽されたフジは218本。約1・1キロメートルにわたって続く藤棚には、7種類のフジが咲き誇る（6ペーン参照）。その美しい花と香りを楽しもうと、毎年、多くの観光客が訪れる。春日部市コミュニケーション推進協議会コミュニケーション部会長の「開会宣言」を台図に、ファンファーレが響きわたる。今年も、どんな笑顔に会えるだろうか？







パレードには、春日部中学校(写真上)をはじめ、豊野中学校のマーチングバンド(写真中右)や八中崎小中学校の金管バンド(写真中左)など16団体が参加。

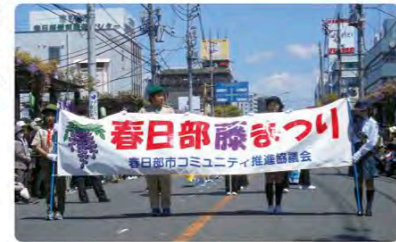


5つの団体による流し踊りには、誰でも自由に列に入ることができるので、お年寄りから小さな子どもまでが1つの大きな輪になり、楽しく踊っている。



「春日部藤まつり」の横断幕を手にパレードを先導するのは、ボーイスカウト・ガールスカウトのメンバーたち。ボーイスカウトのブースでは、道行く人たちに活動について説明し、参加を呼びかけていた。

主催者、来賓、市職員は、春日部市の特産品である「麦わら帽子」をかぶりパレードを行っている。



パレードで演奏する  
姉の姿に憧れて……

11時、春日部郵便局交差点に、金管楽器の勇壮な音色が響く。いよいよパレードのスタートだ。

パレードの先頭を飾るのは、春日部市立春日部中学校吹奏楽部「チャレンジャーズ」。マーチングコンテスト全国大会で金賞を受賞した経験も持つ強豪校だ。

「藤まつりは、チームが新体制に替わって初めての大舞台。毎年、特別な気持ちで参加しています」と話すのは、3年生の部長・三浦佳菜さん。彼女が初めてパレードの一員として藤まつりに参加したのは小学校3年生のとき。チャレンジャーズで演奏する姉の姿に憧れ、「いつかは自分も、あのユニフォームを着て演奏したい」と願ってきた。今年も、自らがリーダーとなって39名の部員を率いる。その緊張感からか、キリリと引き締まった表情が印象的だ。マーチングは音づくりだけでなく動きも加わるため、相当な練習が必要となる。生徒たちは全国大会出場を目指し、平日は毎日午後4時から6時までの2時間、練習に励んでいる。

「藤まつりのパレードは、保護者の方々が、卒業した先輩たちも、今年のチームはどんな演奏を見せてくれるだろう」と期待を込めて見守つて

くれています。そして、地域の人たちのあたたかい応援を肌で感じられる場でもあるんです。日ごろ応援してくださっている皆さんに恩返しをしたい……そんな思いで演奏しています」と三浦さん。顧問を務める山崎里美先生も、その思いを語る。

「コンクールでの入賞も大切ですが、演奏や演技だけでなく、地域の方々に愛される礼儀正しい人に育ってほしい……チャレンジャーズには、そんな伝統も受け継がれているんです」

チャレンジャーズの他にも、幼稚園の鼓笛隊や小学校の金管バンドなど16組のパレードが続く。涼しげに咲き誇る藤棚に沿って、沿道の人々の声援が連なっていた。

第1回から参加しています  
みんなで踊るのが健康の秘訣

午後になると、ふじ通りが6つのエリアに分かれ、各種イベントが始まった。春日部駅に最も近い第1会場では、小学生による「沖縄エイサー」、第3会場では「阿波踊り」、そして第5会場では県内外から集まった26団体による「よさこいソーラン」と、ふじ通りの熱気が高まっていく。

第2会場では「流し踊り」が始まった。春日部市連合婦人会、春日部市文化連合会、庄和音頭保存会など



春日部市民謡レクリエーション連盟会長の三ノ輪浪子さん。「民謡に合わせて体を動かすことが元気の源。今後も続けていきたいですね」

5つの団体がリードし、沿道の人たちも飛び入り参加して大きな踊りの輪ができあがる。中でもひととき目を引くのが、裾に藤の花をあしらった揃いの着物が踊る一団。春日部市民謡レクリエーション連盟のメンバーたちだ。会長を務めるのは三ノ輪浪子さん。藤まつりをはじめ、毎年、全国各地で開催されるイベントにも参加しているという。

「会員は290名、今日は160名が参加しています。夏には市内各地の盆踊り会場で、それぞれ地元の会員たちが踊りますが、会全体で参加できる藤まつりは、私たちにとても最大の晴れ舞台。実は、私たちは第1回からこのお祭りに参加して踊っているんですよ。藤まつりは、沿道の皆さんも大勢参加してくれるので、毎年とても楽しみにしています」

ポカポカ陽気の中、額にはうっすらと汗が浮かんでいる。冷たいお茶を飲み干して、再び踊りの輪に加わった。





4 みんなが「藤」を愛するまち



藤まつり名物の「藤おこわ」今年も「うれしい悲鳴」

藤まつりに参加する市民や観光客にとって、沿道に軒を連ねる模擬店も楽しみのひとつ。今年には50以上のブースがふじ通りを彩った。  
お好み焼きやチョコバナナといった露店でおなじみのメニューが並ぶ中、「藤おこわ」という文字が目に残った。  
出店しているのは、春日部市食生活改善推進員協議会。市内の各地域で、食を通じた健康づくり活動を推進しているボランティア組織だ。会長の樋口京子さんに話を聞いた。  
「25年ぐらい前、藤にちなんだメニューをつくらうとみんなで開発したんです。去年までは250個用意していたんですが、お昼には売り切れてしまったんです。そこで今年は、会員たちが協力してなんとか350個つくりました」  
鮮やかな藤色の秘密は黒豆と梅干し。ひと口ほおばると、黒豆の香りと梅の酸味が口いっぱい広がる。パッケージには、自宅で藤おこわを作るためのレシピも添えられている。「回を重ねるごとに「毎年、楽しみにしています」と言ってくくださる方が増えているんです。うれしいですね」話している間に、最後の1個が売れていった。時計を見ると、まだ12



市内外から集まったよさこいソーランの団体は26団体。

時6分だ。  
「この調子では、来年は500個ぐらい準備しなきゃいけないかも」樋口さんたちの「うれしい悲鳴」は、来年も続きそうだ。

86名のキッズダンスチーム 匠巻のパフォーマンス！

14時、藤棚を仰ぎ見る歩道は、さらににぎわいを増してきた。そんな中、第2会場付近にひととき雑する一角が……この記事



和太鼓団体「彩誠太鼓」の迫力満点の演奏。



エネルギーに全身でメンバーに指示を送る代表のたていしさん。座右の銘は「根拠のない自信。それを裏付ける努力」

の冒頭で紹介した、キッズダンスのステージだ。  
春日部市を拠点に活動するキッズダンスチーム「ドロップス」は、今年で創設8年目。現在は、3歳から高校生までのメンバーが86名、大人を合わせると総勢100名を超える大所帯だ。市の産業祭、春日部コミュニティ夏まつりなど、年間約20か所のイベントに出演している。  
チームを率いるのは、「ドロップス」の代表・たていしみかさん。音源の制作から振り付け、ステージの構成までを一人でこなす。  
「藤まつりは、子どもたちが毎年心待ちにしているイベント。青空の下で、気持ちよく汗をかきながら踊れるのがうれしいですね。ステージも全方向なので、360度どこから見ても楽しんでくれる演出を心がけています。チームを卒業した子どもも、藤まつりにはスタッフとして参加してくれるので、同窓会みたいな雰囲気もあって楽しいです」  
約30分間にわたって繰り広げられ

たステージ。そのフィナーレを飾るのは、86名全員参加のパフォーマンスだ。観客から沸き起こる拍手と声、大きな一体感に包まれていた。  
36年前、地域のコミュニティ形成を目的に誕生し、以来、多くの市民が協力して大切に育ててきた「藤まつり」。歳月を経て、2017年の来場者は19万人と大きく成長した。参加する人たちは、それぞれの思いを胸に、このふじ通りに集う。これからは、満開の藤が彩るこの場所

で、人々の笑顔が弾けることだろう。





みんなが「藤」を愛するまち。 **5**

# 今年はこんなに咲きました!!

家族で育てる大切な記念樹  
いつか藤棚の下で暮らしたい!

満開のフジの鉢植えを手に持つのは、現在、さいたま市に住む竹田利幸さんと妻・優子さん、長女・希ちゃんの3人家族、そして「藤の窓口」(左下参照)を担当する春日部市道路管理課の職員だ。

市では、緑の普及啓発の一環として、結婚・出生・新築のお祝いに記念樹をプレゼントしている。この鉢植えは、竹田さんの結婚や希ちゃんの出生などの記念樹として贈られたものだ。

「いただいた3枚の引換券を、ずっと保管していたんですが、家を新築して、2年前に春日部を転出するときに引き換えてもらったんです。春日部に住んでいた時、住まいの隣にあった豊春地区公民館には大きな藤棚があって、美しい花や、甘い香りを毎年楽しみにしていました。数種類の記念樹からフジの苗木を選んだのはそんな理由からでした」と、優子さんは笑顔で語る。

竹田さん家族は苗木にそれぞれ名前をつけ、市のホームページの情報を参考に、大切に育ててきた。その甲斐あって、2年目の4月には65個の花芽がついた。しかし……。

「水をあげても、土にしみ込んでいなくなってしまうんです。あわ

てて『藤の窓口』に問い合わせました。そうしたら、すぐに担当の方が、ていねいに対処法を教えてくださいました」

相談を受けた担当者は「問い合わせの内容を見て、根詰まりが原因だと思い、割り箸で土をほぐし、通気を良くするように伝えました」。

優子さんが、アドバイスどおり対処すると、徐々に水がしみ込むようになり、葉も青々と茂り始めた。その後は順調に生育し、今年は写真のように見事な花を咲かせている。

夫婦には、ささやかな夢がある。「もっと大きく育ったら、藤棚を作ってフジの下で暮らしたい。そして、いつか希に、このフジを受け継いでもらいたいですね」

フジの「困った!」を解決する

## 藤の窓口

これからフジを育てたい人や興味のある人、育てているフジで困っていることがある人など、フジに関するものならどんなことでも気軽にご相談ください。ふじ通りの藤棚を約40年間守り育ててきた、担当職員が真摯に対応します。

電話:048-736-1111/FAX:048-736-1974  
受付時間:午前8時30分~午後5時15分(土日祝日を除く)/  
市ホームページ、FAXは24時間受付



## 山崎 薫

(俳優・歌手、牛島小学校・東中学校卒業)

フジの花は両親や  
地元の人たちの優しさの  
象徴なんです

現在、私は舞台を中心に俳優として活動していますが、高校時代は芸大の音楽科を目指していました。音楽家の両親のもとで育ったため、自分も同じ道に進むのが当たり前だと思っていました。でも、実技試験を前にして、「このまま敷かれたレールの上を進むだけでいいんだろうか」と疑問に感じ、試験前日に「受験をやめる」と突然宣言したんです。今思うと遅い反抗期だったんですね。当然、親は大反対しました。泣きながら激しい言い合いになりましたが、最後に背中を押してくれたのも両親でした。

以前から興味があった演劇の道に進みたいと話すと、受験できる劇団を調べて教えてくれた

1988年生まれ。浦和第一女子高等学校卒業後、文学座研究生を経て、2009年新国立劇場演劇研究所入所。栗山民也氏、鈴木裕美氏ら多くの演出作品に出演。2012年からワタナベエンターテインメント所属。歌手としても活躍中で、春日部市内各所や小中学校でコンサートを開催するなど地元密着型の活動にも力を注いでいる。

んです。結果として、文学座の研究生になることができました。文学座や新国立劇場の演劇研究所で演技の基礎を学びながら、徐々に舞台に立つようになりました。舞台の芝居には歌と違った面白さがあります。芝居は共同作業が

基本です。相手役と常に向き合い、その関係を深めていくと、想像もしなかった自分に出会うことがあります。また、芝居は、他人を演じているようですが、実は俳優の人間性や演技に対する姿勢など、その人の内面まで観客に見えてしまうものなんです。ですから、常に自分の内面を磨く努力を怠らないように努めています。

たとえば、花を見て美しいと感じるピュアな心を持っているかどうか、演技と無関係ではないんです。今回、表紙の撮影で久しぶりに「藤花園」を訪れたのですが、小学生の頃に花を見たときの感動が自分の中心よみかえに蘇ってくるのを感じて正直ホッとしました。そして、花を眺めながら、地元で応援してくれている人たちの顔を思い出していました。8年ほど前に私の後援会が地元で結成され、発足式でプレゼントされたのが藤娘の羽子板だったんです。

また、私の住む地域は、家庭でフジの花を育てていたり、小さな公園にも藤棚があったり、フジの季節に公演先から帰ってくると、甘い香りと可憐な花房に癒やされます。フジの花を見るたびに、私を育ててくれた両親や地元の人たちの優しさに包まれるようで、元気になれます。

フジの花を見ると、私のことを応援してくれている地元の人たちの笑顔が浮かんでくるんです。





＼こちら、シティセールス広報課です！／

EVENT

**5/3(木・祝)**  
**5(土・祝)**  
**大凧あげ祭り**  
江戸川の上空に百量数の大凧が勇壮に舞う  
平成30年度の文字は「平成」と「感謝」

大凧あげ祭りは江戸時代後期から続く伝統のお祭りで、子どもが元気に健やかに育つようにと願いが込められています。毎年5月3日・5日は江戸川河川敷を埋める10万人もの人々が見守るなか、縦15m、横11m、重さ800kgの大凧が空へ舞い上がります。その隣では小凧や小町凧などが舞い、祭り気分をさらに盛り上げます。



場 所：西宝珠花地先江戸川河川敷(宝珠花橋下流)  
問合せ：春日部市大凧あげ祭り実行委員会事務局  
TEL：048-736-1111(春日部市役所)  
アクセス：東武アーバンパークライン南桜井駅北口下車、直通シャトルバス(有料)ほか  
※大凧をゆっくと観覧できる有料観覧席も用意してございます。

**5/4(金・祝)**  
**第30回記念 春日部大凧マラソン大会**  
記念大会に出場するランナーを沿道で応援しよう

「大凧あげ」を広く全国に周知するため、5月4日に開催する県内最大規模の市民マラソン大会で、毎年、全国から約1万人のランナーが参加します。



場 所：庄和総合公園周辺  
問合せ：春日部大凧マラソン大会実行委員会事務局(春日部市教育委員会スポーツ推進課)  
TEL：048-763-2446  
アクセス：東武アーバンパークライン南桜井駅北口下車、徒歩20分または直通シャトルバス(無料)  
※今年のランナーの募集は終了しました。

アクセスマップ



PRESENT

感想をお寄せいただいた方の中から  
抽選で3名様に、山崎薫さんのサイン入り  
ミニ羽子板をプレゼント!!



牛島小学校・東中学校卒業  
俳優・歌手 山崎薫さん

山崎薫さん  
サイン入り

- 応募受付期間…平成30年4月1日(日)～平成30年8月1日(水)必着
- 応募方法……①市公式ホームページ内専用フォームからご応募ください。  
→「かすかべプラス」で検索!
- ②官製はがきに以下の項目をご記入の上、ご郵送ください。

□お名前・性別・年齢・ご住所・電話番号  
□本誌の入手先 □よかった記事(ページ番号) □ご意見・ご感想  
《応募宛先》〒344-8577 春日部市中央六丁目2番地  
春日部市役所シティセールス広報課 かすかべプラス第10号プレゼント係  
※賞品の当選は発送をもって発表に代えさせていただきます。  
※応募の際にご提供いただく個人情報(氏名・住所等)はこの企画以外の目的には使用しません。



READERS VOICE

読者からの声を紹介!

「川・水辺」に人が集うまち」と題して、「春日部の水辺の魅力」をテーマとした『かすかべプラス第9号』に対してお寄せいただいた、ご意見・ご感想の一部を紹介させていただきます。

春日部市民になって5年目。この情報誌によって春日部のことをいろいろ知ることができると嬉しいです。

興味をもったことに行動的になる大切さを感じました。人や自然とふれあうことで心が豊かになるんだなと思います。これからも春日部のいろいろな情報を掲載してください。

(市内在住・女性)

(市内在住・男性)

編集後記

かすかべプラスは、平成25年10月に第1号を発行してから今回で第10号という節目を迎えました。第10号のテーマは「藤」。フジは市の花に指定されており、これまでのテーマの中でも、市民の皆さんには特になじみ深いものであると思います。

本誌の中でも取り上げた「牛島の藤は、フジとしては国内唯一の特別天然記念物で、千二百年以上前からこの地に根を張る木です。市内に存在するどんな木も知り、春日部の歴史を一番よく知っているのはこの木なのかもしれないと思うと、なんだかとても感慨深いものがあります。読者の皆さんには、本誌をきっかけに春日部の藤についての知識をさらに深め、興味を持っていただければうれしいです。皆さんにとっては見慣れた藤であっても、その背景を知った後に改めて眺めてみると、きっとまた何倍も美しく、奥深いものに感じることでしよう。

最後に、フジには「歓迎」という花言葉があるそうです。これまでのかすかべプラスで取り上げてきたように、春日部にはたくさん魅力があります。皆さんもいろいろな場所を訪れて、「春日部」を実際に感じてみてください。春日部市は、皆さんのお越しを心から「歓迎」いたします。(春日部市シティセールス広報課)

お知らせ  
かすかべプラスは、本号をもちまして一時休止させていただきます。

春日部がもっと好きになる、まちの情報誌  
kasukabe+2018 SPRING/SUMMER  
発行日 平成30年3月  
発行 春日部市シティセールス広報課  
〒344-8577 埼玉県春日部市中央六丁目2番地  
tel 048-736-1111  
ISSN 2188-1928

制作協力・印刷・製本/株式会社文化工房  
※本誌の無断転載・複製を禁じます。

